

平成 28 年 5 月 24 日現在

機関番号：23702

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26671040

研究課題名(和文) 看護者対対象者の2者関係に基づく地域生活集団を対象とした看護活動の構造

研究課題名(英文) Structure of nursing practice targets the community groups from the perspective of dyadic interaction as nurse-client relationship

研究代表者

松下 光子 (MATSUSHITA, Mitsuko)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60326113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域生活集団を対象とした看護活動である行政保健師の実践活動事例について、看護者と対象者という1対1の関係を用いて、その成り立ちを構造図に示すことを試み、活動を説明する新たな概念を創出する基盤をつくることを目指した。

保健師の実践活動事例4事例について、保健師および保健師が働きかけた対象者へのインタビュー調査により、活動の展開過程を把握し、構造図を作成した。その構造図をインタビューを行った保健師に提示、共有し、修正を行った。この方法により、保健師活動の地域への広がりを捉えることや作成した構造図の修正が可能であることを確認できた。保健師の判断の分析、作成した図の統合が今後の課題である。

研究成果の概要(英文)：This study purposed to create the basis of new concept that gives an explanation for public health nursing practice, through making up a figure that is reflected a practice of public health nurse who work for an administrative organization. In this study we targeted the practice cases that had got good results on the community. And we tried to analyze the practice cases from the perspective of one to one relationship that meant nurse-client relationship.

On four public health nursing practice cases, we interviewed public health nurses(PHNs) and persons who PHNs had relationships. Then we analyzed the developmental process of that practice cases based on the interview data and making up the figures of each practice cases. We shared the figures with PHNs who had interviewed and renewed the figures. We confirmed this research method was applicable in this study. How analyze the decisions of PHNs and how integrate the figures from four cases will be issues to be addressed in the future.

研究分野：看護学

キーワード：看護学 保健師活動 2者関係 援助の構造

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の行政保健師の活動は、地域生活集団を対象とし、地域の健康課題の解決を目指して行われる看護活動である。地域生活集団を対象とした看護活動というと、統計データに基づき、マスとして対象を見られるかと思われがちであるが、保健師が働きかけているのは、統計データではなく、現実存在する一人一人の住民、住民の健康や生活をともに支えるさまざまな専門職、行政職員など、一人一人の人間である。保健師が働きかける一人一人をすべて看護の対象者として捉えることにより、看護者対対象者という看護の基本的構造である1対1の関係が同時に、また、経時的に多数形成されて展開されていく看護活動としてその成り立ちを説明することができるのではないかと考える。

米国のAndersonらのCommunity as Partner<sup>1)</sup>やカナダのKuligによるOriginal Community Resiliency Model<sup>2)</sup>もコミュニティを一人一人の集まりとしているが、その個人への働きかけを具体的に説明しているものではない。国内では、保健師活動を説明する際に個別と集団への援助は常に強調される<sup>3)</sup>が、1対1の関係を基本的な概念として保健師活動を説明するモデル等はない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域生活集団を対象とし、地域の健康課題の解決を目指して行われる看護活動であるわが国の行政保健師の活動について、看護援助の基本的構造である看護者と対象者という1対1の関係を以て、その成り立ちを構造的に示し、保健師活動を説明する新たな概念を創出する基盤をつくることである。保健師活動においては、保健師が働きかける看護の対象者は、個人、個人にかかわる家族員、援助にかかわる関係者など多様である。保健師は、同時に、また、経時的に多くの対象者に働きかける。ここでは、看護者と対象者という2者の関係が多数形成

され、地域の健康課題解決を目指した活動が展開される。その活動の中での保健師の判断、働きかけ、対象者の反応、2者関係の変化を、実践活動事例に基づいて構造図として示すことを目的とする。

また、本研究期間の取り組みから、実践活動事例の情報収集から研究事象に迫る研究方法を確立する。

## 3. 研究の方法

(1) 研究メンバーが行政保健師と実施している共同研究の取り組みの検討を通じたインタビュー調査の準備と具体的調査方法の作成

(2) 雑誌記事を情報源とした研究対象とする保健師の実践活動事例の選定

(3) 保健師および保健師が働きかけた対象者へのインタビューによる実践活動事例の展開実態の把握

(4) インタビュー調査により把握した実践活動事例の分析と保健師への確認

## 4. 研究成果

(1) 作成したインタビューガイド

保健師へのインタビューガイドは、1) この活動のきっかけはどのようなものでしたか、2) あなたは、何をを目指して、誰にどのように働きかけようと考えましたか、3) 実際にあなたは、誰に何を、どのように働きかけましたか、4) 働きかけた相手の反応はどうでしたか、5) 相手の反応を見て、あなたは何を考えましたか、の5大項目とし、各項目をさらに捉えるための質問も準備した。5)の質問から3)の質問に戻り、次の展開を聞くという流れを繰り返して活動の経過を聞くこととした。

保健師が働きかけた対象者へのインタビューガイドは、1) 何がきっかけでその活動が始まりましたか、2) あなたは、何をを目指してどのように行動されましたか、3) その結果、何が起きましたか、4) 保健師

は、あなたの取り組みにいつ、どのようにかかわっていますか、という4項目とした。

#### (2) 研究対象とする保健師の実践活動事例の選定

雑誌記事から19事例が抽出された。研究メンバーで検討を行い、保健師と働きかけた対象者の両者へのインタビュー調査を行う事例として、働きかけた対象が住民か、専門職中心か、広く住民に働きかけているか、健康問題の当事者か周囲の人か」という視点から選出した2事例を優先順位の高い調査候補事例とした。また、保健師のみへのインタビュー調査を行う事例として、「活動している保健師数」「最初の課題が個別事例からのものであることがはっきりしているかどうか」という視点から選出した1事例と「働きかけた対象が住民か、専門職中心か、広く住民に働きかけているか、健康問題の当事者か周囲の人か」という視点から選出した1事例の計2事例を優先順位の高い調査候補事例とした。

#### (3) 保健師および保健師が働きかけた対象者へのインタビューによる実践活動事例の展開実態の把握

##### 保健師へのインタビュー調査

候補とした4事例はすべて研究協力の了解が得られ、4事例計7名の保健師、1名の栄養士にインタビューを行った。

##### 保健師が働きかけた対象者へのインタビュー調査

候補とした2事例はいずれも研究協力の了解が得られた。2事例計9名の働きかけた対象者にインタビューを行った。

#### (4) インタビュー調査により把握した実践活動事例の分析と保健師への確認

##### インタビュー調査により把握した実践活動事例の分析結果

4事例は、事例ごとに試行錯誤しながら分析方法を検討しながら進め、事例ごとの方法で構造図を作成した。

##### 実践活動を行った保健師への追加インタビューと分析内容の確認

4事例とも保健師への追加インタビューと分析内容の共有・確認を行った。この追加インタビューは4事例6名の保健師に実施した。その結果に基づき、必要な図の修正を行った。

#### (5) 作成した保健師活動の構造図および研究方法についての取り組みの成果と今後の課題

作成した保健師活動の構造図は、看護者対象者という二者関係を基盤とすることは共通して作成しているが、それぞれの事例ごとの分析方法で作成しており、全体の統合は今後の課題である。

研究方法については、保健師と働きかけた対象者の両者にインタビューを行うことにより、働きかけた対象者からさらに他者へと働きかけが広がっていく状況を捉えることができることは確認できた。また、インタビューの分析結果として作成した図を保健師と共有して意見交換することにより、作成した図の適切さを確認したり修正したりすることも確認できた。今回の分析では、二者の関係性に焦点をあてた分析が主となったため、保健師の判断を把握、表現する方法については、さらに検討する必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

本研究期間中には該当なし。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

松下 光子 (MATSUSHITA, Mitsuko)  
岐阜県立看護大学看護学部・教授  
研究者番号：60326113

##### (2) 研究分担者

梅津 美香 (UMEDU, Mika)  
岐阜県立看護大学看護学部・教授  
研究者番号：50326112

大井 靖子 (OHI, Yasuko)

岐阜県立看護大学看護学部・講師  
研究者番号：60326121

山田 洋子 (YAMADA, Yoko)

岐阜県立看護大学看護学部・准教授

研究者番号：50292686

山本 真実 (YAMAMOTO, Mami)

岐阜県立看護大学看護学部・講師

研究者番号：90710335

(3)連携研究者

堀 里奈 (HORI, Rina)

岐阜県立看護大学看護学部・助教

研究者番号：10751810

文献

1)エリザベス T.アンダーソン、ジューディス・マクファーレン編集、金川克子、早川和生監訳；コミュニティアズパートナー 第2版、医学書院、2008.

2)Judith C.Kulig;Community resiliency:The Potential for Community Health Nursing theory Development; Public Health Nursing、17(5)、375-385、2000.

3)安齋由紀子、酒井太一、佐藤憲子；わが国における保健師活動のモデル・理論に関する文献レビュー、看護研究、38(6)、9-18(443-452)、2005.